

日時 平成 30 年 3 月 26 日 (月曜日) 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (東京都千代田区外神田 2-2-19, 2F) <http://www.csm.or.jp/wp/access/>

参加者 宇佐神、佐藤、古山、山本、辻井、市川、村山

欠席届 新川、望月、井上、緒賀、長塚、大塚

審議事項 今後の部会の新方針：出版化できる書籍として生きた企業の経営者の生きざま、その経営理念をまとめる。

辻井・村山：今回お休みした若手の皆さまには、本日ある程度決まったことについてご理解とご支援をお願いします。ぜひご意見をください。

・本日決まったこと。役に立つ、今どきの会社 (ガイアの夜明け、カンブリア宮殿、勇気ある経営者大賞、日本で残したい会社) を選択する。日本経営道協会のリードカ開発道場の訪問企業履歴 (200 社) のデータをもとに、訪問すべき企業を下記の 11 社ほどを選択した。

・伊那食品工業、ココ壺番屋 (この二社は経営者が交代したので要検討)、丸和運輸機関、ダイヤ精機、再春館製菓 (山本)、石坂産業、パスポート (青木)、ガリバーインターナショナル、ホッピー、エニシング (村山)、日本理科学工業 (順不動、売上高順に並び替える)

・一人が一社の割り当てで、担当し以下の内容を記述し、報告し、部会での推敲を受ける。

・記述内容：本部会らしさが出るよう、単なる企業紹介にとどまらず、1. 経営理念が何で、創業者によっていかに形成されたか。2. その経営理念はいかに従業員に浸透させ、継承されてきたか。3. 経営理念の実現としての企業行動とは何か。

・200-300 ページ程度。字数、割り当て企業については次回に相談。

その他の議論の内容：

古山：高橋博夫編『トップマネジメントの経営倫理』(白桃書房)で7人の共編著。上場企業の社長にインタビューし、10個の倫理チェックリストも作成した。何度も集まって、平さんの細かい指摘を入れて、推敲して出版した。各社が大量の購入し、一冊3000円の定価にできた。

・倫理とは行動に結びつくもの。原理はシンプル。倫理学の原則は義務論、帰結主義、徳理論の3つしかない。幸福のためにいかに倫理を実践するのか(アリストテレス)。

市川：倫理の課題に限定せず、生き方の問題として徳を扱う。義とか報恩感謝。

山本：日本人としての生き方とは何かを訴えるべき。

古山：日本人とかヨーロッパ人とか国ごとの民族特性を主張するのはナンセンス。日本的経営で有名な伊那食の塚越さんもカントの倫理原則(普遍性原理、人間性原理)についてその通りだと納得された。

宇佐神：役割分担の立場から日本人は火山国、共同社会で、役割を受け入れるが、欧米の大陸思想は、ケガをしたら排除か負ける。15世紀ヨーロッパが世界を支配した。日本は危機感があり、支配されず。

古山：ジャレド・ダイヤモンドの書籍によれば、日本は宗教、コミュニティ、識字率の高さがあった。インカは危機感がなく、滅ぼされた。

佐藤：最後は、負担の問題が出てくる。前回の時は00万円負担した。山本：00冊注文した。

今後の予定 毎月第4月曜日 18:00-20:00

場所 企業家ミュージアム (東京都千代田区外神田 2-2-19, 2F)

4月23日